

第 118 回汽水域懇談会

大田市仁摩町馬路琴ヶ浜の総合的研究 ～鳴砂海岸の保全に向けて～

話題提供者：林 広樹（島根大学総合理工学研究科准教授）

日時：2016年5月27日（金）17：00－18：00

場所：汽水域研究センター2階セミナー室

上を歩くと澄んだ楽音を発する「鳴砂」は、美しく良好な海浜環境の象徴として注目され、全国各地でその保全や活用に向けた活動が活発になってきている。鳴砂となるための条件としては、円磨された淘汰の良い石英砂から主に構成されていること、砂に汚れが付着していないこと、泥質分を含まないことが挙げられる。琴ヶ浜は全長約 1.2km のほぼ全面が鳴砂になっており、音質と規模の双方において我が国随一の鳴砂海岸となっている。しかし、かつては 1968 年から 1984 年の離岸堤設置工事により、ほとんど鳴らなくなるまで音質が悪化した。その後、1989 年から 1999 年にかけて離岸堤を人工リーフ（潜堤）に代替する工事が行われたことにより、波による砂の洗浄作用が復活するとともに、現在は良好な鳴砂が回復している。

琴ヶ浜の自然遺産としての意義を評価し、また鳴砂の良好な環境を将来にわたって保全することを目的として、2013 年度に大田市教育委員会からの受託研究として琴ヶ浜の海浜測量調査、集水域の地形・地質調査、および琴ヶ浜湾内の地形と底質（粒度分析、化学分析、有孔虫分析）の調査を実施した。その結果、琴ヶ浜では地形的制約により砂が湾内に封じ込められているため、砕波点から海浜の間の反復移動によって洗浄され、鳴砂海岸が維持されていることが示された。本講演ではそれ以降の解析結果も含めて、琴ヶ浜の現在の状況を報告する。

